

画像生成AIとジェルメディウムを用いた ハイブリッド表現

芸術学部
芸術表現学科
准教授

羽太 広海



研究シーズの紹介

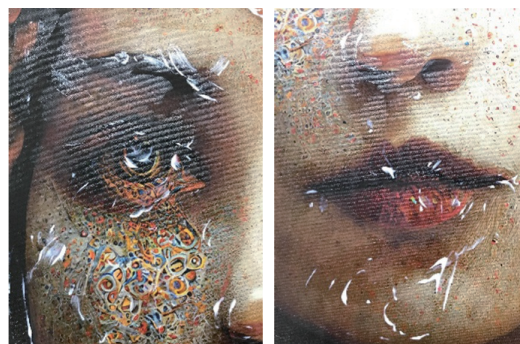
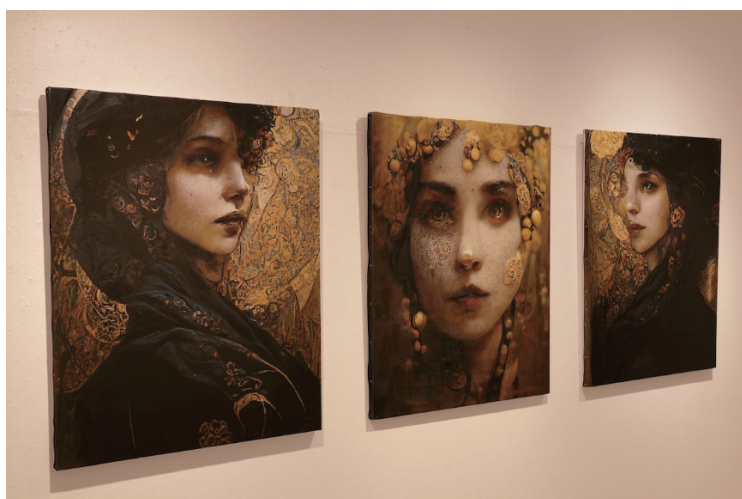
テキスト特徴量から指示に合わせた画像を生成する拡散モデルベースのAIを使用して画像を生成したのち、ジェルメディウムを加筆し、あたかも油絵用ようなタッチと質感を加えたハイブリッドアートの手法研究及び制作。画像生成AIの登場はまさに画家にとっての悪夢が現実化してしまった事態です。画家の専売特許である描画のタッチなどが、世界中からデータセットとして取り込まれモデル化され、その意味が大きく変化してし

まりました。SF作家のフィリップ・K・ディックの悪夢世界のような事態が、クリエイティブというものを根幹から揺るがしています。美術を生業とする人間が、絵筆を使わず画像生成AIという道具を使って絵を生成する。クリエイティブとは何かを問う本手法研究と制作のテーマとなります。（アジアデジタルアート大賞展AIアートアワード受賞）



ジェルメディウムの加筆

- キャンバス印刷した絵に対してジェルメディウムで加筆。
- デジタル作品でありながら、本物の油絵と見分けがつかない。



期待される活用シーン

- 現実の絵画とデジタルのNFTアートがあるが、両方の価値も持たせない。



現実世界の絵画と仮想通貨と紐付いてNFTアートの両方の価値を持つことが可能。

- 画像生成AIを活用して、手軽に油絵を制作し、内装などに役立てたい。



AIアートをジェルメディウムを使って加筆し、油絵にする。